

# 温室内の外国産稀少マツの樹勢回復および育生管理（その3）

上賀茂試験地 長谷川敦史

## 1. はじめに

2011年度より行っている温室内の外国産稀少マツの管理について、2013年度の実施状況について報告する。

樹木目録等（上賀茂試験地 1998）をもとに調査した結果、上賀茂試験地のマツ属の生育種数は2011年度末で77種であったが、2年ほどの間にマツ枯れなどで2種が消滅し、2013年度末現在で75種（品種・地方品種および交雑種を除く）となった。種数が減少するなか、本数が少ない種の適正な管理や増殖を進める一方で、新たな種の導入や枯死した種の再導入を進め種数の充実に努めている。また、マツ枯れ防止のために毎年実施している薬剤散布と並行して樹勢回復措置を講じている。そのなかで、温室で育生している種は稀少な種が殆どであるが、それらの管理は特に重要となっている。

## 2. 維持管理

従来からの定期灌水のほか、2011年度よりみどり（マツの新芽）摘みと整枝剪定を行っている。

マツの冬芽では中央部に芽の原基が残っており、葉が伸び終わる前に冬芽が損傷を受けると、この原基から新たな芽（2番芽）が生ずる。この性質を利用したのがみどり摘みである（大島 1995）。

みどり摘みは、摘み芽1に対して2番芽が複数生ずることもあり、芽数の増加や枝振りを調整しやすい等のメリットがある。

昨年度まではみどりの基部（以下、基部摘みとする）と途中（中芽摘み）（写真1）から摘む2通りの方法で行っていたが、前者の2番芽発生状況が後者よりも良好であったことから、今年度は前者のみ実施した。時期は新梢の伸長成長が終了する前の6月に行った（村越 2013）。

今年度は10種13本の外国産マツを対象とした。表1に各々の種について個体ごとの供試芽数および2番芽発生数を示した。



写真1 みどり摘み

表1 みどり摘みを行った種の供試芽数と2番芽発生数

学名	和名	供試芽数	2番芽発生芽数
※ <i>Pinus.maximartinezii</i> ①		8	16
※ <i>P.maximartinezii</i> ②		3	1
※ <i>P.maximartinezii</i> ③		5	7
<i>P.oocarpa</i>		3	6
<i>P.lawsonii</i>	ローソンマツ	3	4
<i>P.teocotoe</i>		3	2
<i>P.canariensis</i>	カナリーマツ	3	0
<i>P.resinosa</i>	レジノーサマツ	3	4
<i>P.roxburghii</i>	ヒマラヤマツ	3	4
<i>P.michoacana</i>	ミコアカーマツ	7	11
<i>P.gerardiana</i>	ジラードマツ	3	8
※ <i>P.merkusii</i> ①	メルクシマツ	3	7
※ <i>P.merkusii</i> ②	メルクシマツ	7	9

※個体別に番号を付けた

2013年12月までに9種12本のマツで2番芽が発生し、昨年度(長谷川 2012)と比較して発生種数・本数とも増加した結果、みどり摘みの効果がより期待できることがわかった。一方で、*Pinus oocarpae*では1つの供試芽から6つの2番芽が生じたが(写真2)、うち3つが3ヶ月後に枯死し、2番芽の成長状況を注視する必要があることを示した。カナリーマツ(*P. canariensis*)は今年度に瀕死状態になり、供試芽はすべて枯れた。



写真2 2番芽発生状況

整枝剪定は芽吹き前の3月に行った。昨年度に強度剪定したため今年度は軽度にとどめたが、全ての種の光環境を良好にするため、一部南側に生育する種の樹高抑制と間引きを強度に行った。また次年度以降の枝振りや芽の伸長を考慮し、徒長していない芽や幹近くの基部から生えている芽を残すとともに、温室の天井部に接触しないよう全体的に徒長枝を中心に剪定し樹高を抑えた(写真3、4)。

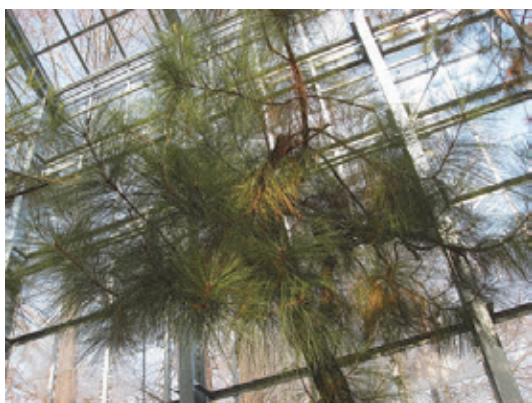


写真3 剪定前の様子



写真4 剪定後の様子

### 3. 次年度に向けて

みどり摘みによる2番芽の発生数は、昨年度よりも増加し、一昨年度から試験的に開始したみどり摘みによって全体に樹勢が回復してきたものと思われる。次年度は今年度の結果をもとに、供試範囲を種ごとに判断する。整枝剪定については、新芽の発生状況や伸長程度を見ながら行う。地植えの種について、今後土壌改良が必要かどうかを検討する。

最後に、本報告をまとめるにあたり、ご指導をいただいた寄元道徳助教に御礼申し上げます。

### 引用文献

上賀茂試験地(1998) 上賀茂試験地樹木目録. 51pp

上賀茂試験地(1998) 上賀茂試験地樹木位置図. 44pp

大島誠一(1995) マツ属における適応と種分化(I) 生物科学 47:32-39.

村越匡芳(2013) ひと目でわかる 庭木の剪定. 192pp,池田書店. 164-165.

長谷川敦史(2013) 温室内の外国産稀少マツの樹勢回復および育生管理. 2012(平成24)年度 研究林試験地情報. 43-45